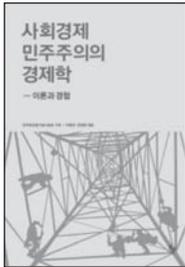


経済

イ ガン グク
李康国 (立命館大学経済学部)イ ビョン チョン チョン チャン ファン
李炳天、全銀煥 編

『社会経済民主主義の経済学』(トルペゲ、2013年)

이병천, 전창환 엮음 『사회경제민주주의의 경제학』(둘베게, 2013년)

かつて2012年の大統領選挙のトピックになっていた経済民主化の声は弱まり、今や経済活性化の声が高まっている。朴槿恵政府は福祉を大きく拡大するという公約をくつがえし、鉄道産業の分割民営化を推進し、労働者のストライキに強硬な対応を見せるなど、企業親和的かつ反労働的な経済政策を推進している。しかし、不平等と貧困が日増しに深刻になっている現実には、市場根本主義にもとづく新自由主義ではない民主的な社会経済を構築するための絶え間ない取り組みを要求している。

本書はこのような取り組みの一環として、社会民主主義経済学の理論と現実とに関する韓国の進歩的な経済学者の長期にわたる研究成果を集大成し、提示したものである。計13章からなる本書は、さまざまな矛盾を抱えた資本主義市場経済システムを、民主的かつ社会的に統制し、より人間的なものに作り替えようという社会民主主義経済学の観点から、さまざまな事例や代案について議論している。1部「社会民主主義経済学の基礎」では、資本主義内部の民主的改革をうながし、市場の問題点を克服するための理論的アプローチを提示している。また2部では、財閥改革、労働者の経営参加、金融自由化、福祉国家、年金問題など、さまざまなテーマにつきアメリカやドイツをはじめとする海外の事例を紹介し分析している。3部ではデンマークのフレキシキュリティモデル、アメリカのニューディール改革、開発途上国のワシントンコンセンサスや発展モデルなど、社会経済的民主主義に関する重要なテーマについて論じている。

筆者は、自由市場を強調する主流経済学が破綻し、マルクス主義政治経済学も現実性をほとんど帯びていない状況のもとでは、これらの両極端の単純な経済学を乗り越え、民主的な資本主義を作りあげる必要があることを、現代の制度主義経済学の理論的実践を通じて蓄積された豊富な研究成果に基づきながら提示している。新自由主義の問題点はハッキリと露呈しているものの、未だそれに代わる体制のイメージを探り出せていないというのが韓国の現状であり、その意味でこのようなアプローチには大きな意味があると言える。とりわけ論者が執筆した13章は開発途上国の発展モデルとして、ワシントンコンセンサスの問題点を批判し、社会経済民主主義にもとづく新たな代案発展モデルが必要であることを強調している。



チョンヨン ス
田 英 洙 著

『イケア世代、彼らの逆襲が始まった』(中央ブックス、2013年)

전영수 『이케아 세대 그들의 역습이 시작했다』(중앙 books, 2013년)

本書において「イケア世代」とは、海外文化にはなじんでいるものの、経済的な事情のため低廉なスウェーデン家具ブランドであるイケア (IKEA) の製品を使い、居所を移しながら暮らしている30代を指している。しばしば韓国の30代は、恋愛も結婚も出産もあきらめた「三抛世代」と呼ばれる。本書は、社会経済的に見て困難な状況にある韓国の若者世代を、外見は洗練されているが、耐久性に乏しいイケア世代と呼び、彼・彼女らの新たなライフスタイルを分析している。彼・彼女ら青年世代の逆襲は「タルムード (Talmud)」に出てくる言葉のように「今、この瞬間をきちんと生きること」で、彼・彼女らは「就業、恋愛、結婚、出産、養育」に続いて社会共同体を持続させている先輩世代の道を拒否しているのである。

筆者は具体的な事例を通じて、高学歴でありながら低賃金の韓国の30代が、なぜ結婚をせず、子供を産まないのかを明確に示し出している。このような現実、日本がすでに経験している高齢化や低出産問題につながり、最終的には深刻な社会経済的問題につながる可能性が極めて高い。日本でも社会福祉負担が増大した結果、財政赤字や国家負債が深刻化し、青年と比べて老人の政治的影響力が強まった。その一方で、韓国では他の先進国と比べてソーシャルセキュリティネットワークが弱まり、老人の貧困問題や世代間の葛藤問題がさらに深刻化すると予想されている。このような暗い未来を想定しながら、筆者は現在行われているさまざまな政策的取り組みを通じ、これらの問題に対応していくことが至急の課題であると強調している。

本書によれば、現在の青年問題や低出産、高齢化を克服するためには、まず労働時間を短縮し、仕事と暮らしとを調和させなければならず、また結婚や住宅を支援し、出産率を高めるための政策的取り組みが欠かせない。また、企業は利潤のみ追求するのではなく、社会問題にも目を向けねばならず、人間を最優先する発想の転換が求められている。数多くの若者世代の利害と要求を政治が代弁するためには、政治改革や政治参加が不可欠であり、また中産層を強化するためにはソーシャルセキュリティネットワークを確立し、敗者復活の機会を拡充しなければならない。筆者はこのように成長と分配とをともに追求し、老人の知恵と青年のエネルギーとを合体させ、時代の変化に備えた共存戦略を準備することで、持続可能な社会構造を構築することを主張する。

経済成長にもかかわらず、世界的に見ても低い出産率、世界最速のスピードで進む高齢化、世界最高水準の自殺率などは、韓国社会がいかに生きづらい社会であるかを如実に物語っている。余裕のない現実のなかで、希望さえ失った韓国の若者世代は「ヒーリング」に熱を上げ、「心穏やかでいられますか (안녕들 하십니까?)」という壁紙を通じて、民主主義の回復や平等で公正な経済の実現を叫んでいる。韓国の青年世代が肌で感じている問題を鋭く指摘し、今すぐ行動を起こさねばならないと強く主張する本書は、青年だけでなく政策決定者も必読すべき一冊である。



EBS 製作チーム

『EBS ドキュプライム 資本主義』（ガーナ出版社、2013年）

EBS 제작팀 『EBS 다큐프라임 자본주의』（가나출판사, 2013년）

韓国の教育放送、EBSは2012年秋、岐路に立っている資本主義にスポットライトを当てたドキュメンタリーを5部作で放映し、大きな注目を浴びた。本書は5部作の放送では惜しくも放映しきれなかった内容をより深く掘り下げて補完し、整理して本にしたものである。1部では資本主義の秘密である借金について分析し、2部では金融危機と関連して金融商品について説明し、3部では現代の消費マーケティングの秘密を明らかにする。次いで4部では資本主義の危機とこれに対する解決方法を考察し、5部では現代資本主義の諸問題を克服する未来像として福祉にもとづく福祉資本主義を提示する。

本書の評価すべき点の1つは、2007年のグローバル金融危機以後、深刻な批判にさらされている現代金融資本主義の問題点と矛盾とを指摘し、どのように新しい体制を構築していくべきかを大衆に分かりやすく語りかけている点である。本書は放送では扱いきれなかったサブプライムローンなどの負債問題、大型スーパーで知らず知らずのうちに過消費してしまう問題などを深く掘り下げて扱っており、資本主義の誘惑と危険のなかでどのように生きのびるべきかを提示している。製作陣は多くの人々が最大の関心事として答えた金融と消費を中心に、資本主義のメカニズムや問題点を明らかにしている。例えば、貨幣は「信用」であるという事実を示し、ジャージャー麺の価格が決して下落せず上昇する一方であるのは、絶え間ない信用創造過程のためであると指摘する。また、今や現代人の生活は、ファンドや保険、さまざまな金融商品によって大きな影響を受けており、今後も金融の役割はさらに強まると思われるが、多くの人は金融に対する理解が不足している。このような現状を踏まえ、本書ではとりわけ子どもたちに対する金融教育の重要性を訴えている。

本書には、現代資本主義の行方について、シカゴ大学のラグラム・ラジャン（Raghuram G. Rajan）教授をはじめとする32名の経済関連の知識人にインタビューした結果が掲載されている。ここで示されている彼らの共通した答えは、今は資本主義の進むべき道を再度考察する時期であるというものであった。著者はアダム・スミスやカール・マルクスの観点から現在の資本主義を歴史的に考察し、ケインズとハイエクとの間の「市場か政府か」という論争から抜け出し、人間が最優先される体制を構築しなければならないと結論付けている。

〔日本語訳 吉川絢子〕